

2024年度 決算説明会

～資本コストを意識した経営実現に向けて～

2025年5月16日

広栄化学株式会社
代表取締役社長 西本 麗

目次

◆ 1. 会社概要	2
◆ 2. 2024年度決算概要	7
◆ 3. 2025年度業績見通し	14
◆ 4. 資本コストを意識した経営の 実現に向けた対応について	21

目次

◆ 1.会社概要	2
2.2024年度決算概要	7
3.2025年度業績見通し	14
4.資本コストを意識した経営の 実現に向けた対応について	21

1. 会社概要

(1) 会社概要

①設立 1917年6月17日

②資本金 2,343百万円

③社員数 415名※ (2025年3月末)

④拠点

東京本社：
東京都中央区日本橋小網町1番8号

千葉事業所：
千葉県袖ヶ浦市北袖25番地

ベルギー事務所：
駐在員（住友化学ヨーロッパ出向）

子会社（KGS株式会社）：
千葉県袖ヶ浦市北袖25番地

※嘱託含む
(派遣社員は含めない)



千葉事業所

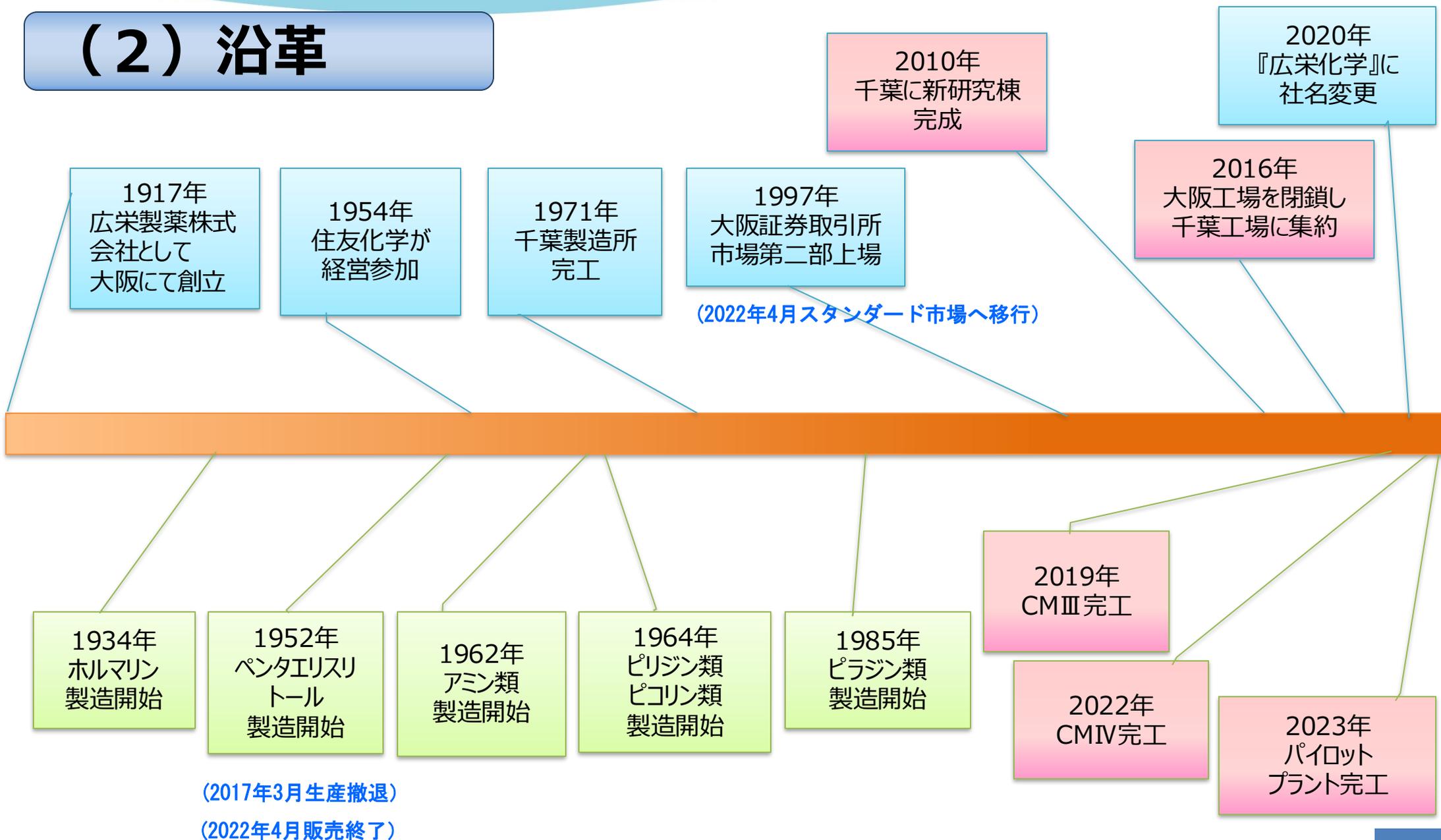


東京本社



1. 会社概要

(2) 沿革



1. 会社概要

(3) 事業内容 ① 基盤製品

広栄化学は、含窒素化合物のパイオニアです

ピリジン類

主な用途

医薬原料・農薬原料
電材関連・溶剤等

国内唯一の合成
ピリジンメーカー



ピラジン類

主な用途

結核薬ピラジナミド

ピラジナミド原料CPZは、
世界シェアNo.1



ホルマリン

主な用途

接着剤・塗料・樹脂・酸
化防止剤等

アミン類

主な用途

界面活性剤・樹脂
塗料・潤滑油
ゴム薬・
CO₂吸収材等

100種類以上の特殊アミン製造
少量多品種対応



1. 会社概要

(3) 事業内容 ② カスタム合成製品

医農薬中間体

培ってきた含窒素化合物の合成技術を生かし、
独自工業化プロセスを開発

国内外多数の製薬会社に
医薬中間体を供給

有機金属触媒

ポリオレフィン用重合触媒
であるメタロセン触媒に代表される
有機金属触媒を製造

有機合成技術と禁水・禁酸素
条件を組み合わせる
プロセスを構築

その他受託製品

電子材料関連製品等

(3) 事業内容 ③ 機能性製品

イオン液体

主な用途

帯電防止剤・電解液
溶媒等



ウレタン関連製品

URECKO®
KONPUS®

カスタム合成製品・機能性製品は、主にマルチプラント（CMI、CMIⅡ、CMIⅢ）で生産
2022年10月に、マルチプラント4系列目（CMIⅣ）が稼働。

目次

1. 会社概要	2
◆ 2. 2024年度決算概要	7
3. 2025年度業績見通し	14
4. 資本コストを意識した経営の 実現に向けた対応について	21

2. 2024年度決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(1) 決算ハイライト

(単位：百万円)

	2024年度 実績	2023年度 実績	増減 (前年同期比)	2024年度 (2024/5/14予想)
売上高	20,018	19,427	591	21,500
営業利益	566	415	150	1,000
経常利益	356	347	8	950
当期純利益	288	299	△11	650
1株当たり利益	58.96円	61.26円	△2.30円	132.89円

為替レート	円/ドル	153	146	140
	円/ユーロ	159	160	150
ナフサ価格	円/kl	76,000	68,700	70,000

2. 2024年度決算概要

(2) 売上高 … 製品グループ別【前期比】

(単位：百万円)

	2024年度 実績	2023年度 実績	増減	増減の主な内訳
医農薬化学品	9,281	9,838	△556	抗潰瘍薬等関連 (↘) 農薬関連 (—)
機能性化学品	8,043	6,670	1,373	触媒関連 (↗) 光学材料関連 (↗)
その他	2,692	2,918	△225	樹脂用原料 (↘)
合計	20,018	19,427	591	(売価差+549、数量差+42)

2. 2024年度決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



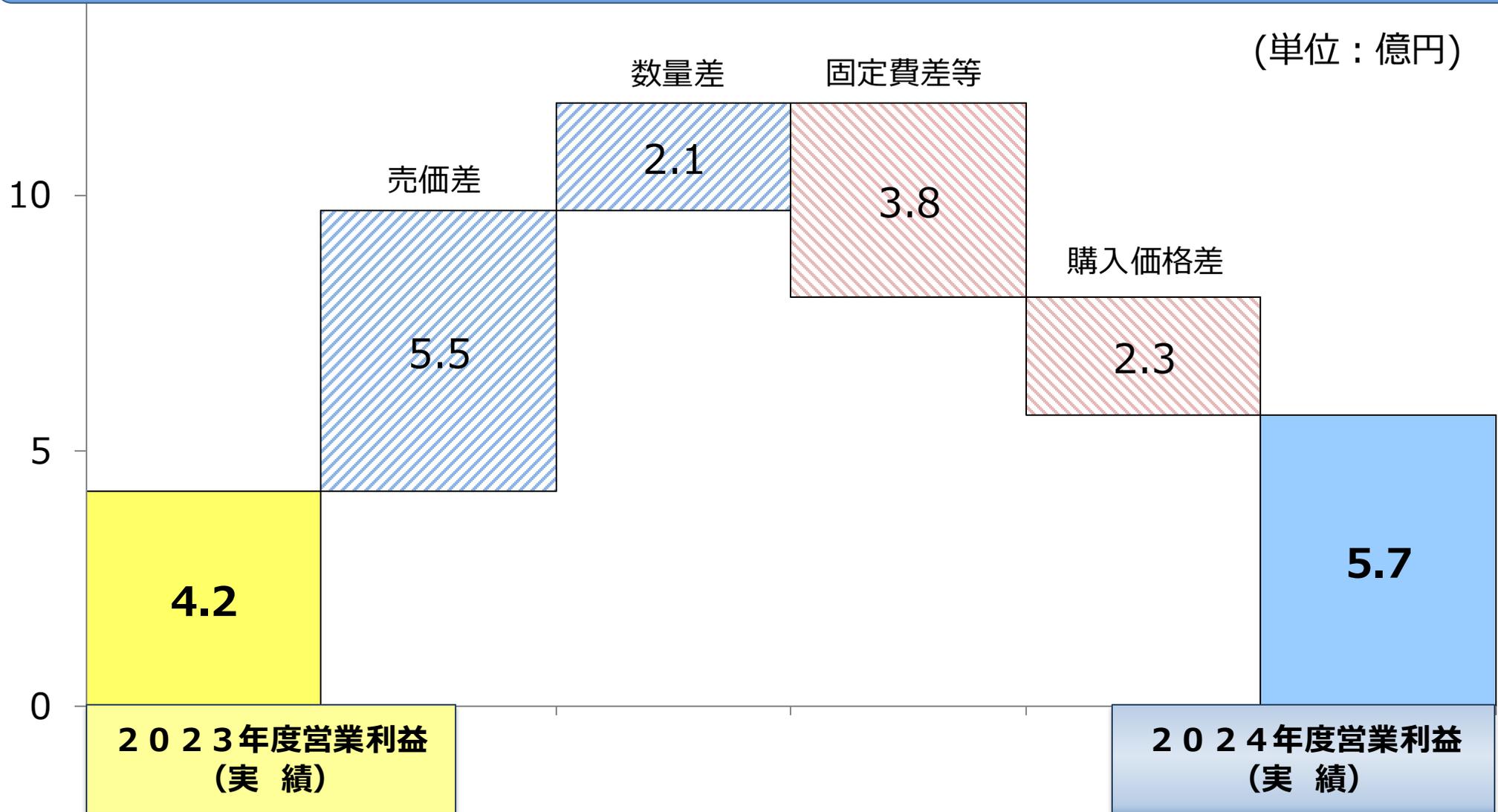
(3) 売上高 … 輸出地域別【前期比】

(単位：百万円)

	2024年度 実績	2023年度 実績	増減	増減の主な内訳
アジア	5,211	6,089	△878	農薬関連 (↓)
北米	3,351	2,141	1,209	農薬関連 (↑)
欧州	3,115	3,685	△570	抗潰瘍薬等関連 (↓)
その他	0	0	△0	
輸出合計	11,678	11,917	△239	(円安によるプラス影響+284)
為替レート (円/米ドル)	(152.79)	(145.97)		
輸出売上比率	58.3%	61.3%		

2. 2024年度決算概要

(4) 営業利益分析【前期比】



2. 2024年度決算概要

(5) 貸借対照表

(単位：億円)

借方科目	(2024年3月末)	(2025年3月末)	増減	貸方科目	(2024年3月末)	(2025年3月末)	増減
[資産の部]	393.0	352.2	△40.8	[負債の部]	174.8	136.0	△38.8
流動資産	149.3	130.4	△18.9	流動負債	94.9	72.6	△22.3
固定資産	243.7	221.8	△21.9	固定負債	79.9	63.4	△16.5
				[純資産の部]	218.2	216.2	△2.0
合計	393.0	352.2	△40.8	合計	393.0	352.2	△40.8

自己資本比率 55.5% 61.4% +5.9%

● 主な増減要因 (資産)

有形固定資産	△ 22.2 億円
売掛金	△ 9.6 億円
棚卸資産	△ 4.2 億円

● 主な増減要因 (負債)

借入金	△ 28.2 億円
設備未払金	△ 8.2 億円
買掛金	△ 1.4 億円

2. 2024年度決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(6) キャッシュ・フロー【推移】

(単位：億円)

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
営業キャッシュ・フロー	19.2	26.2	△0.3	39.8	47.5
投資キャッシュ・フロー	△39.1	△41.9	△50.9	△19.9	△16.6
フリー・キャッシュ・フロー	△19.9	△15.7	△51.2	19.9	30.9
財務キャッシュ・フロー	15.6	18.6	49.1	△18.5	△33.3
現金等同等物増減	△4.3	3.2	△2.1	1.9	△2.4
期末現預金残高	2.6	5.8	3.7	5.6	3.2
期末借入金残高	28.5	52.5	106.5	93.0	64.8

目次

100年の技術と信頼を明日へ



1. 会社概要	2
2. 2024年度決算概要	7
◆ 3. 2025年度業績見通し	14
4. 資本コストを意識した経営の 実現に向けた対応について	21

3. 2025年度業績見通し

(1) 事業環境

● 事業環境

		前期		当期
・医薬関連	需要：減退	(-)	→	(↓)
・農薬関連	需要：減退	(↑)	→	(↓)
・触媒関連	需要：回復	(↓)	→	(↑)
・電材関連	需要：回復	(↓)	→	(↑)
・光学材料関連	需要：開発中	(↑)	→	(↓)

● 取組み

- ・新規用途開拓および新製品開発（特にマルチプラント稼働UP）
- ・製品ポートフォリオ見直しおよび売価是正
- ・各種合理化・厳選投資

3. 2025年度業績見通し

(2) 前提条件

● 為替前提

- ¥140.00 / \$
- ¥160.00 / €

● 原料価格前提

- 国産ナフサ価格 ¥70,000 / kl
- メタノール価格 \$340.00 / ton

● その他

- 定期修繕：2026年2月

3. 2025年度業績見通し

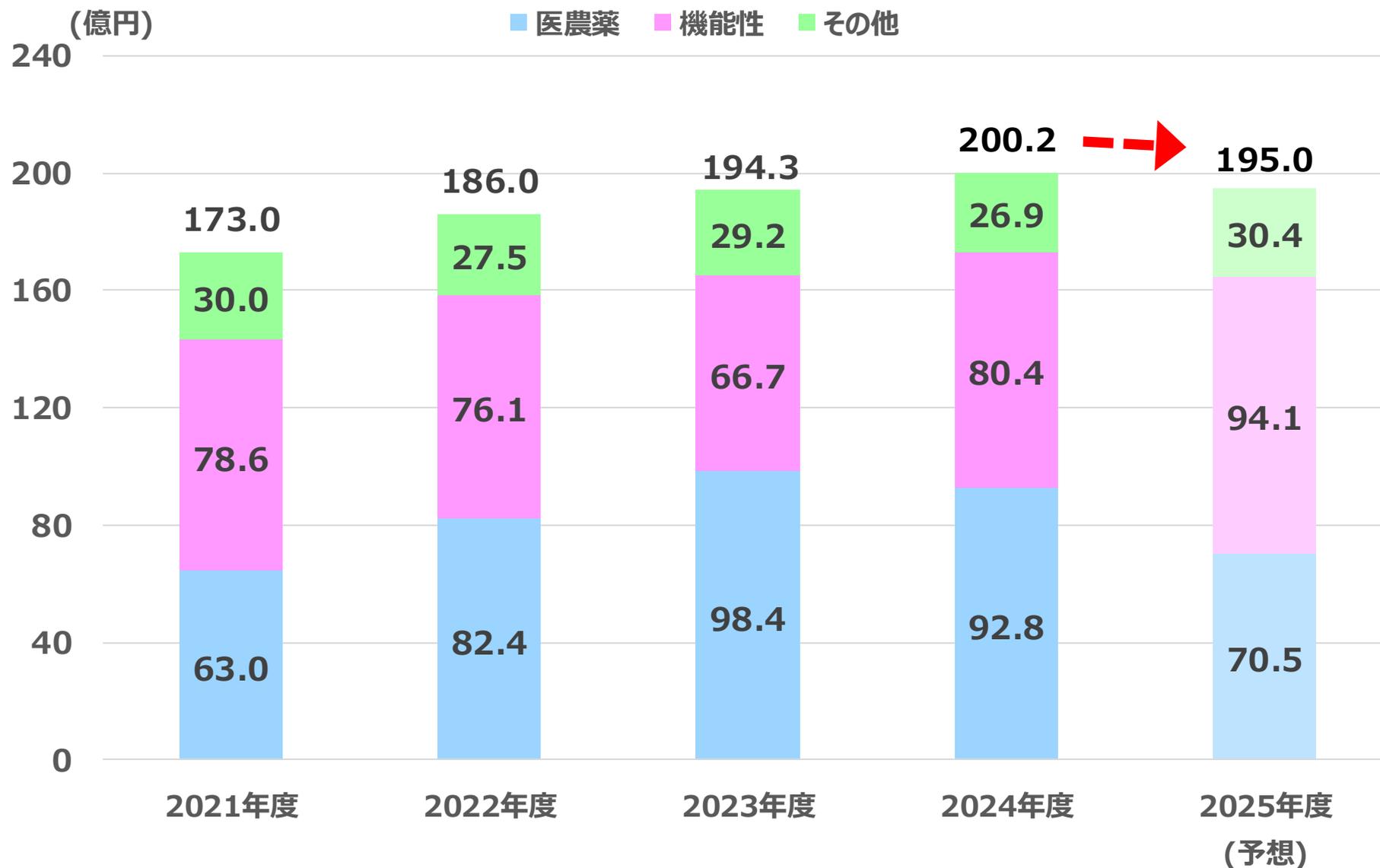
(3) 2025年度業績予想【概要】

(単位：百万円)

	2025年度 予想	2024年度 実績	増減 (前期比)	2025年度 中期計画
売上高	19,500	20,018	△518	20,000
営業利益	450	566	△116	900
経常利益	350	356	△6	
当期純利益	280	288	△8	
1株当たり配当金	100円	100円	-	
為替レート 円/ドル	140	153		150
為替レート 円/ユーロ	160	159		160
ナフサ価格 円/kl	70,000	76,000		72,500

3. 2025年度業績見通し

(4) - 1) 製品グループ別売上高【推移】



3. 2025年度業績見通し

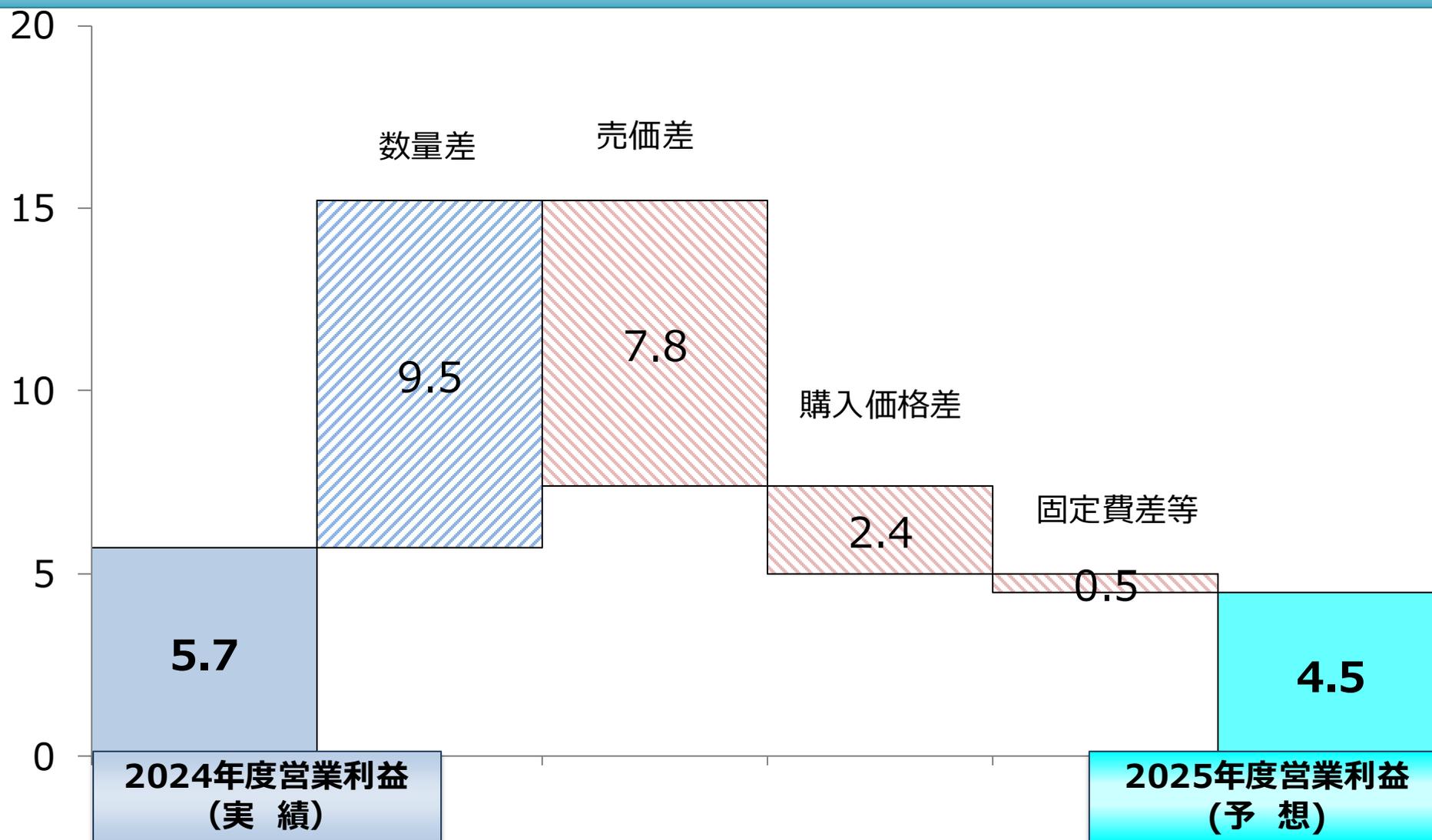
(4) - 2) 製品グループ別売上高【詳細】

(単位：百万円)

	2025年度 予想	2024年度 実績	増減	増減の主な内訳
医農薬化学品	7,049	9,281	△2,232	農薬原料 (↓) 腎疾患薬等関連 (↓)
機能性化学品	9,406	8,043	1,362	触媒関連 (↑) 電材関連 (↑) 光学材料関連 (↓)
その他	3,044	2,692	351	樹脂用原料 (↑) カーボンニュートラル関連 (↑)
合計	19,500	20,018	△518	

3. 2025年度業績見通し

(5) 営業利益分析【前期比】



目次

100年の技術と信頼を明日へ



1. 会社概要	2
2. 2024年度決算概要	7
3. 2025年度業績見通し	14
◆ 4. 資本コストを意識した経営の 実現に向けた対応について	21

4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(1) 現状分析①

■ 売上及び利益の推移

	2021年度 (実績)	2024年度 (実績)	2027年度 (計画)	2030年度
売上高	173億円	200億円	247億円	
営業利益	5億円	6億円	33億円	
営業利益率	3%	3%	13%	
当期利益	9億円	3億円	22億円	
EBITDA	23億円	36億円	62億円	
ROIC	1%	1%	8%	
CCC	153日	152日	120日	

中期経営計画（2025年度～2027年度）では大幅な収益改善を見込むものの、現状は、複数分野における需要減少や過去に実施した大規模設備投資による固定費負担が重く、利益面では伸び悩んでいる。

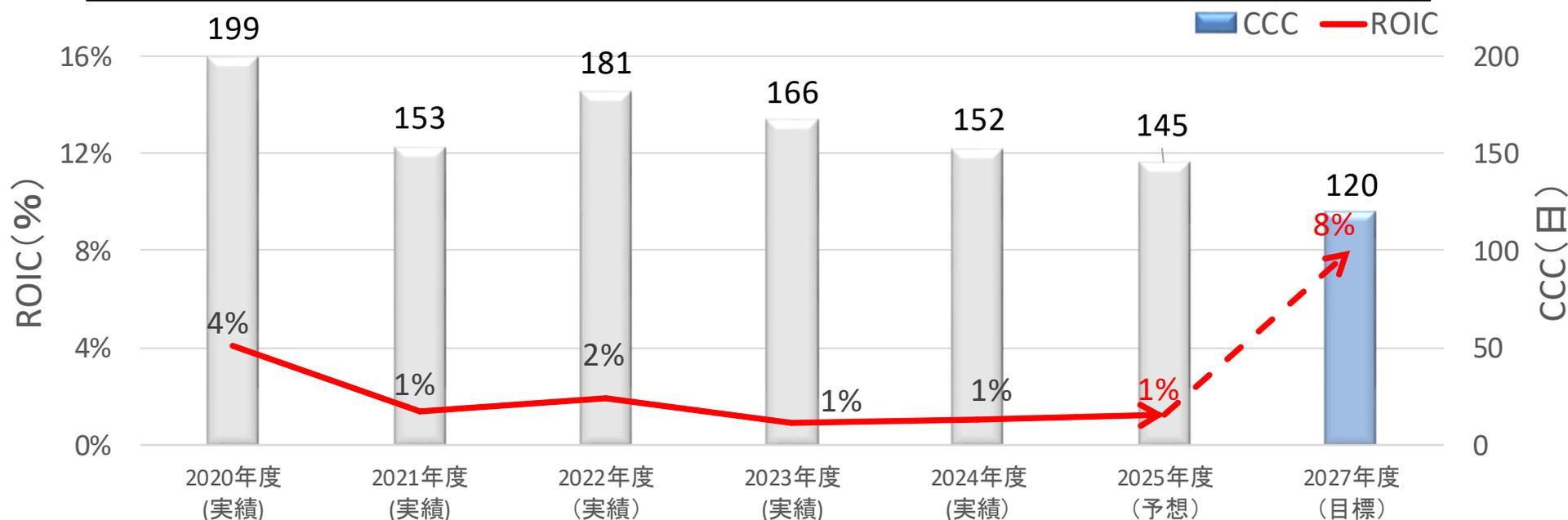
4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(1) 現状分析②

■ ROIC及びCCCの推移

会計年度	2020年度 (実績)	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (予想)	2027年度 (中期計画)
営業利益 (億円)	15	5	8	4	6	5	33
NOPAT (億円)	10	4	6	3	4	3	23
投下資本 (億円)	234	261	299	319	296	280	287

※期首期末平均

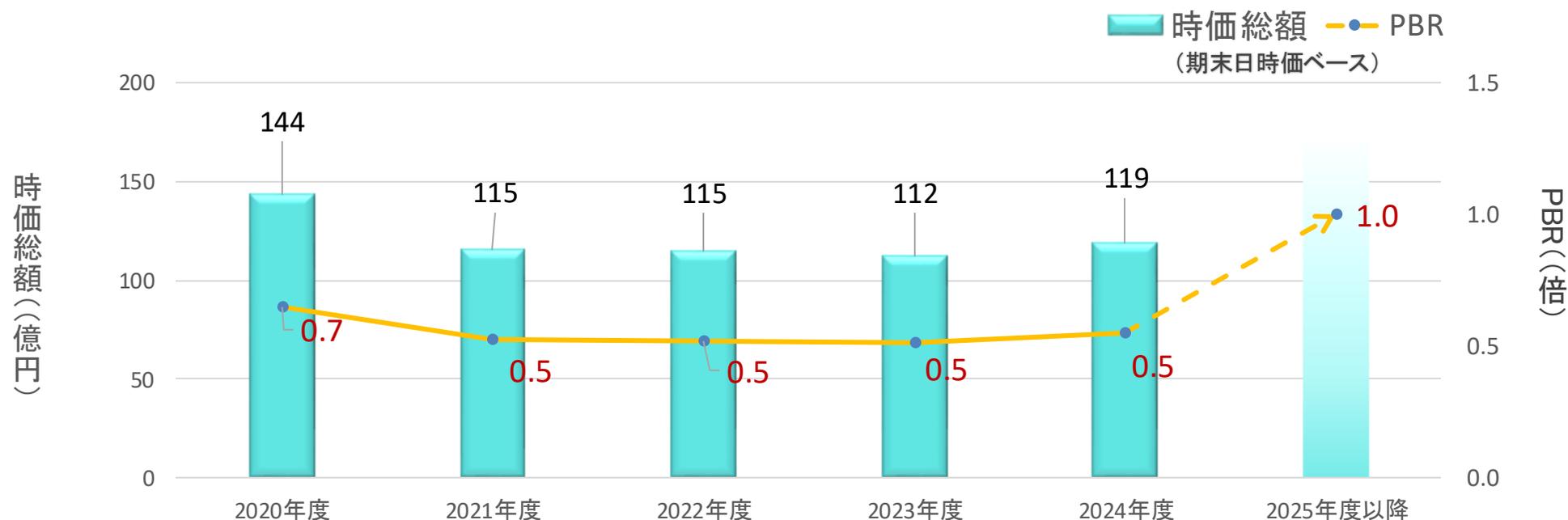


- 2021年度以降、利益面での伸び悩みが続き、ROIC計算の分子となるNOPATが減少
- 2020年度以降、CMIV建設による借入金の影響で有利子負債の水準が上昇し、分母となる投下資本の圧縮が進んでいない

4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(1) 現状分析③

■ 時価総額及びPBRの推移



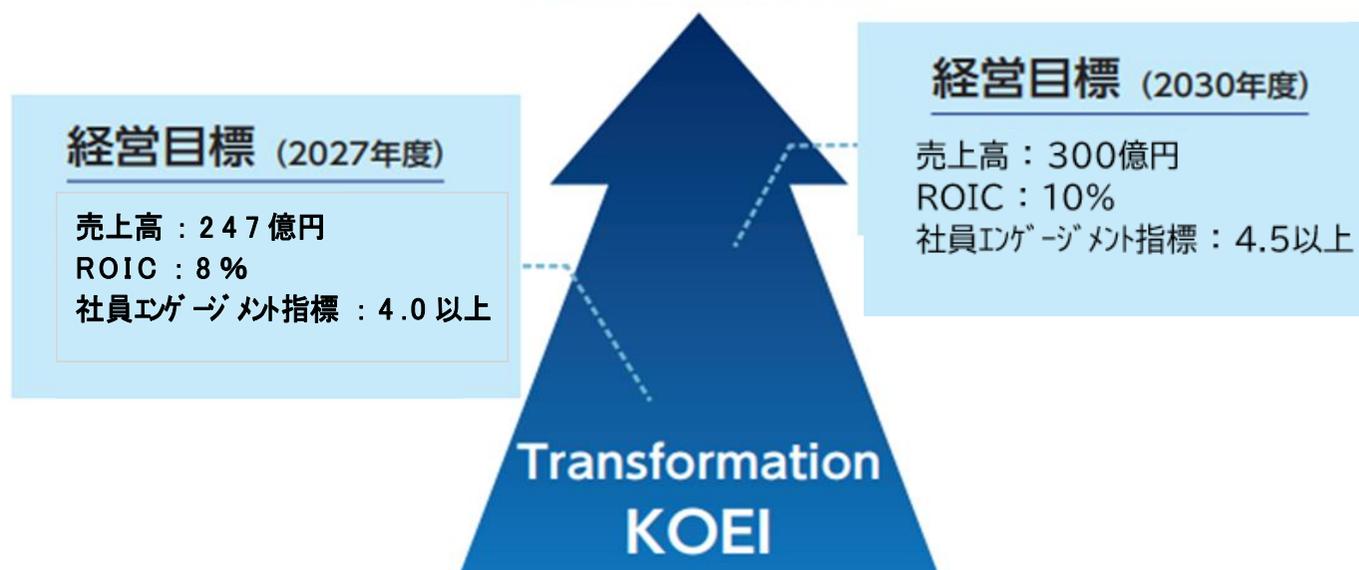
2021年度以降の収益性の低下により、株主や投資家からの期待に充分応えきれておらず、また、当社の成長戦略についてのアピールが充分ではなかったことから、PBRが低水準で推移している。

4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み

- 収益力があり成長を続ける会社
- 事業を通じて社会に貢献する会社
- 皆が働きがいを持ち、幸せになれる会社

KOEI Vision 2030



新中期経営計画（2025年度～2027年度）において、成長戦略・収益性改善対策に取り組み、ROICを改善し、株価の上昇を目指す。

4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (① 目標値)

	2021年度 (実績)	2024年度 (実績)	2027年度 (計画)	2030年度
売上高	173億円	200億円	247億円	
営業利益	5億円	6億円	33億円	
営業利益率	3%	3%	13%	
当期利益	9億円	3億円	22億円	
EBITDA	23億円	36億円	62億円	
ROIC	1%	1%	8%	
CCC	153日	152日	120日	

中期経営計画（2025年度～2027年度）では営業利益:33億円を見込んでいること、また、過去の大規模設備投資による借入金返済により、負債残高の圧縮が進む計画であることから、経営指標の改善が期待できる。

→ 2027年度のROIC目標：**当社のWACC（7%程度）**
当社の株主資本コスト（8%程度）と同程度の8%とする

4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (②中期計画での取組み)

(1) 収益力強化

機能製品/新規事業拡大

基盤事業再構築

製品ポートフォリオ見直し

採算是正・コスト合理化

(2) 事業成長加速

有機金属触媒関連製品の事業拡大

カーボンニュートラル関連製品開発加速

住友化学グループシナジー強化

(3) 経営基盤強化

社員エンゲージメント向上
EXデジタル革新
DXサステナビリティ革新
SX

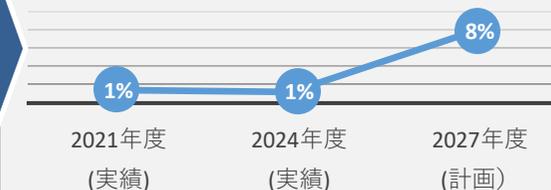
NOPAT向上

営業利益率



ROIC向上

ROIC



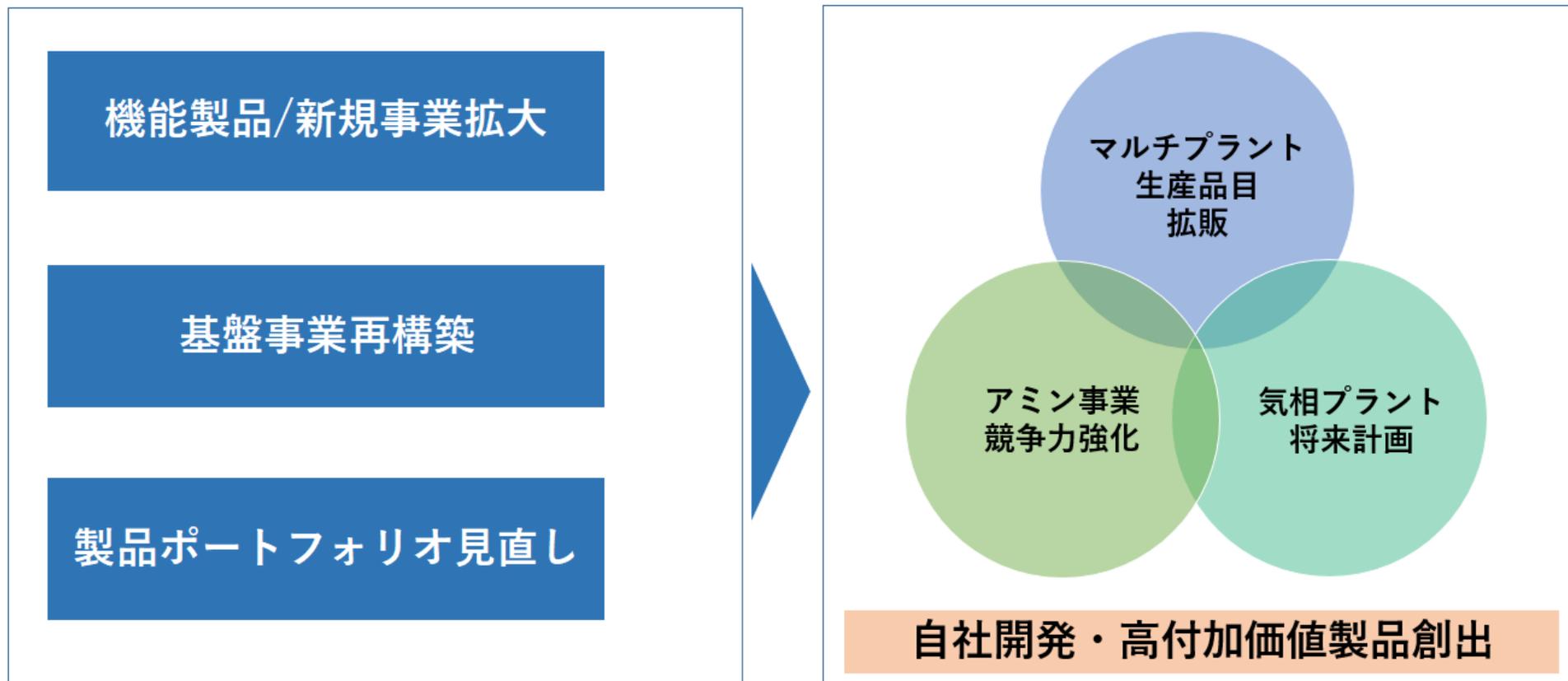
株価向上

PBR



4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (3) 収益力強化



採算是正・コスト合理化

4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (③収益力強化-アミン事業強化)

アミン事業競争力強化策

アミンプラント
(SA) 再構築



国内外メーカーとの
協業強化



製品ポートフォリオ
見直し

- 生産体制最適化
 - ・アミンプラント再構築実施
 - ・インドメーカーとの委託製造の可能性検討
 - ・国内外高圧水添メーカーとの一層の協業強化
⇒アウトソーシング(OS)及びリセール

- 高付加価値製品へシフト
 - ・大型新規受託案件及びCO₂吸収材拡大
- 抜本的な採算性改善

- ・ **高付加価値製品へシフト**
- ・ **抜本的な採算性改善**

4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (④事業成長加速)

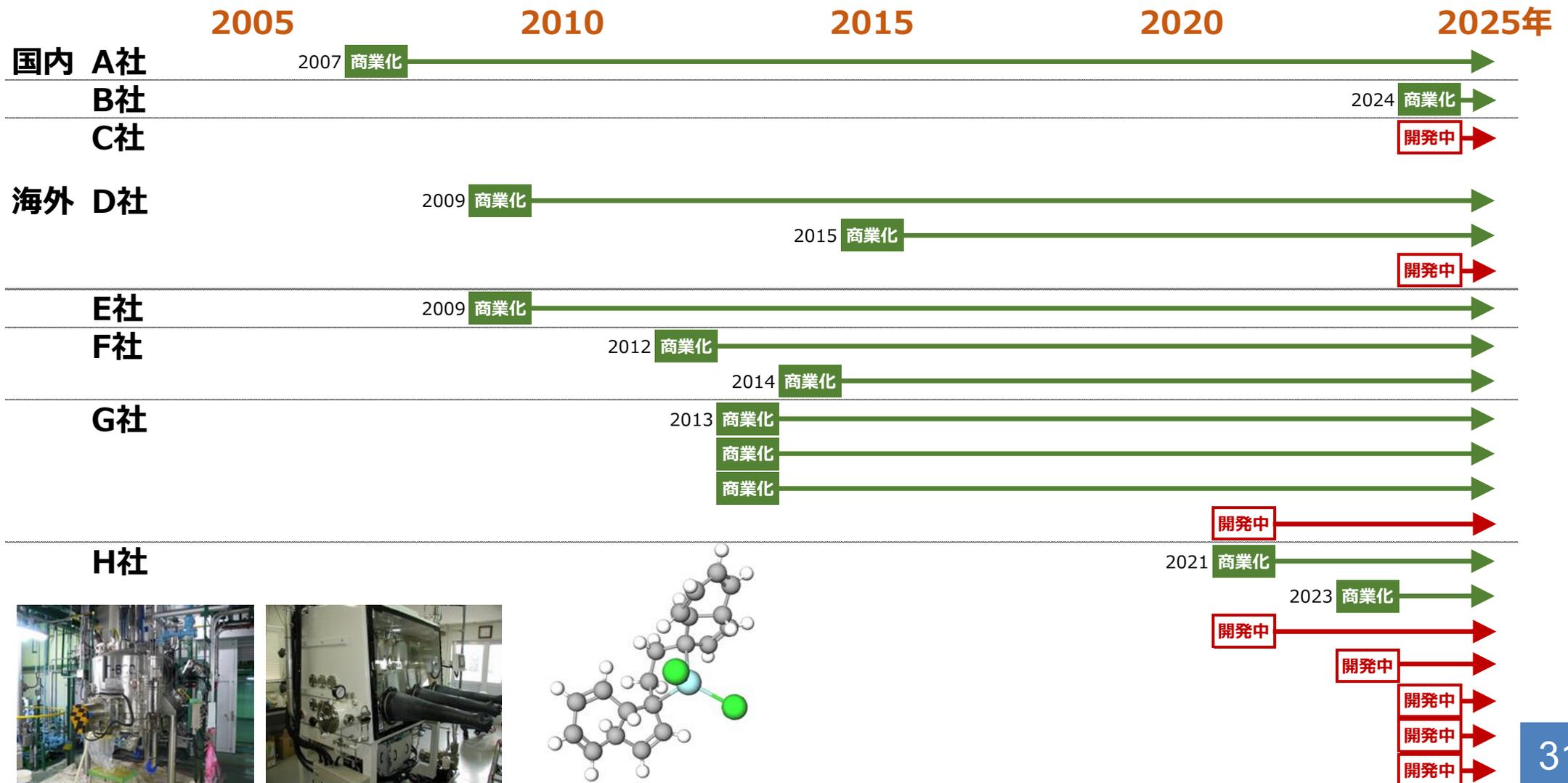
■ 中長期の成長ドライバー



4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (④事業成長加速-触媒関連製品)

触媒関連製品 商業化・開発の状況



4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (④事業成長加速-CO2吸収材)

自社開発CO₂吸収アミンの開発状況

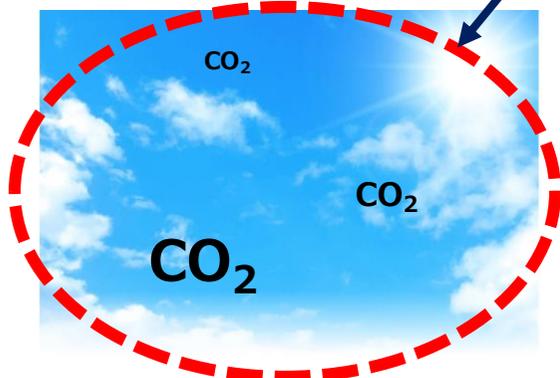
様々なCO₂排出源

火力発電所 セメント 製鉄高炉 石油化学 LNG液化プラント



大気中CO₂

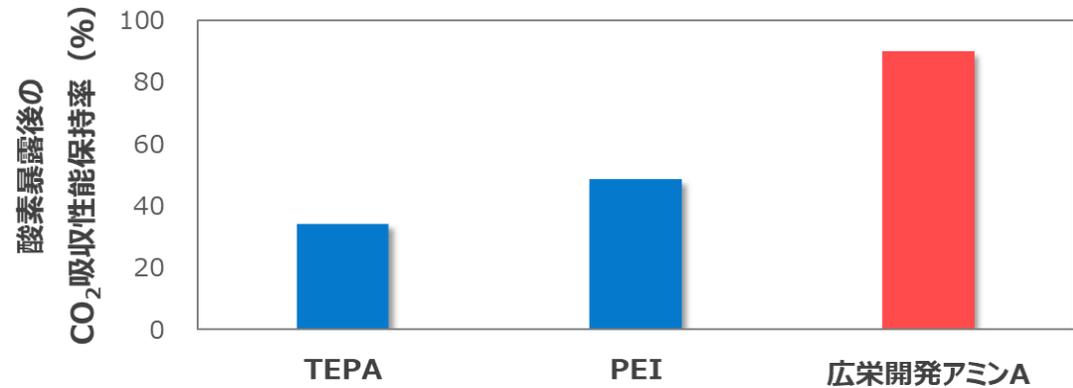
当社ターゲット



“DAC”技術: Direct Air Capture

- ✓ 2024年4月に評価装置を導入
- ✓ 当社100種類以上のアミン製品の基礎評価実施
- ✓ 基礎データから構造最適化により自社アミン開発を進め
酸化耐性の高いDAC向け新規化合物の開発に成功
- ✓ 2025年6月からサンプルワーク予定

酸化耐性評価



TEPA : テトラエチレンペンタミン

PEI : ポリエチレンイミン

※TEPA及びPEIはCO₂吸収材のベンチマークとして汎用的に使用されるアミン化合物です。

4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (④事業成長加速-CO2吸収材)

CO₂吸収材アミンの受託ビジネスの展望

当社受託ターゲット

火力発電所

製鉄高炉



天然ガス



プロジェクトA

2025-2027

スケールアップ検討

2028-2030

実ガス実証

2030-

商用化

プロジェクトB

最終投資決定評価

吸収材製造

操業

プロジェクトC

パイロット試験

実ガス実証

商用化

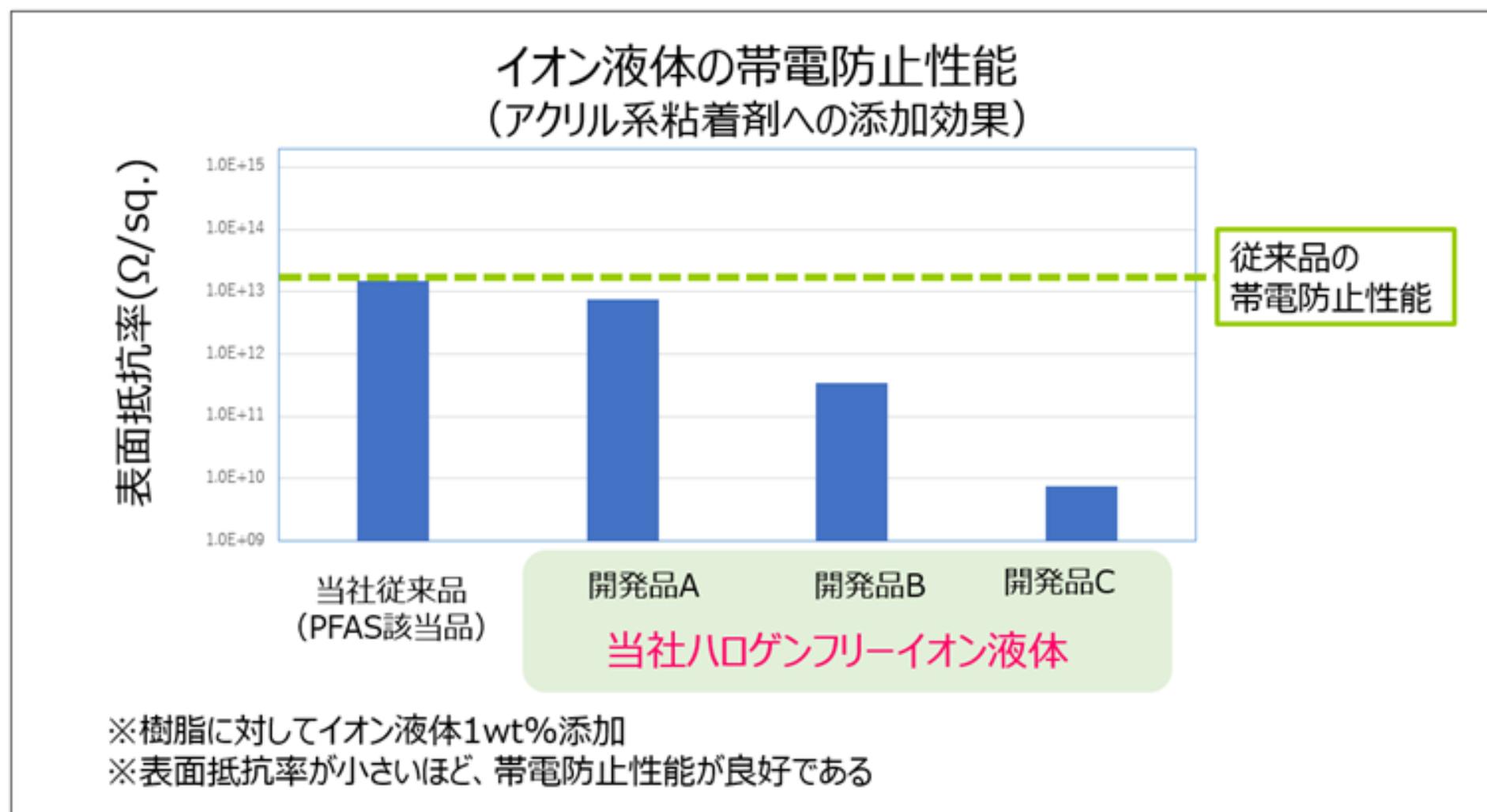
2028-2030年に向けて様々なプロジェクトが進行中。
中でもプロジェクトBは大容量のアミン供給が必要となるため、
現在当社気相技術を活用した検討を実施中。



4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (④事業成長加速-イオン液体)

帯電防止剤向けハロゲンフリーイオン液体の開発



4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (⑤ 経営基盤強化)

経営基盤強化

社員エンゲージメント向上 (EX)

■社員エンゲージメント向上 (EX)

- ・長期にわたり活躍できるキャリア形成
- ・自ら学び成長し続けてもらうための機会の提供
- ・働きがいのある環境の構築

デジタル革新 (DX)

■デジタル革新 (DX)

- ・One KOEI Platformの拡充と高度活用
- ・AIを活用した生産性向上
- ・デジタル人材の育成

サステナビリティ革新 (SX)

■サステナビリティ革新 (SX)

- ・新KPI推進
- ・TCFD対応

マネジメント革新 (MX)

経営指標 (ROIC/CCC) 浸透、各種IR/広報活動充実

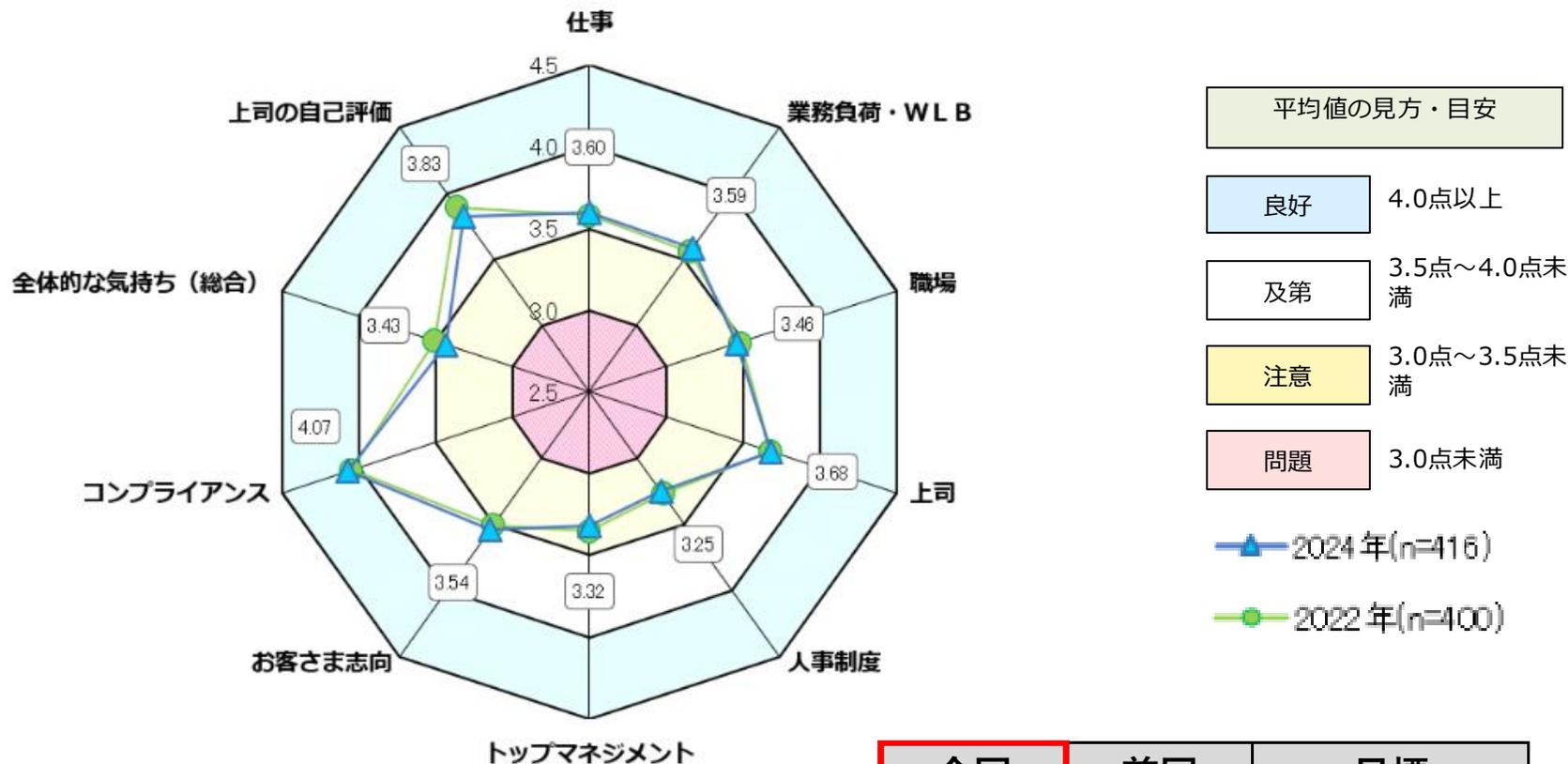
ガバナンス革新 (GX)

コーポレートガバナンス体制強化により充実

4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (⑤ 経営基盤強化-エンゲージメント向上)

第2回従業員意識調査実施 (2025年2月)



	今回	前回	目標
社員エンゲージメント指標	3.6点	3.6点	4.0点(27年度)
ワークライフバランス指標	3.6点	3.6点	4.0点(30年度)

中期経営計画目標

広栄化学KPI

4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (⑤ 経営基盤強化-サステナビリティ)

KPI項目	2023年度実績	2024年度実績	推移
CO ₂ 排出量 (Scope 1 + 2)	33%削減	34%削減	→
エネルギー消費原単位改善 ※1	90.6	79.8	→
農薬原料・中間体売上高	31億円	32億円	→
医薬原料・中間体売上高	67億円	61億円	↓
電子材料関連製品売上高	45億円	50億円	→
新製品売上比率	26.6%	30.3%	→
合理化金額の累積	10億円	11億円	→
デジタル成熟度判定※2	2.8	3.2	→
新卒採用に占める女性社員割合	40.0%	50.0%	→
<u>障がい者雇用率</u>	3.4%	3.4%	→

CO₂排出量 (Scope 1+2)
目標：2013年度比50%削減 (2030年度)



新製品売上高及び比率



※1 2023年度から算出方法を変更。売上高当たりのエネルギー消費量を、2020年度実績を100として指数化

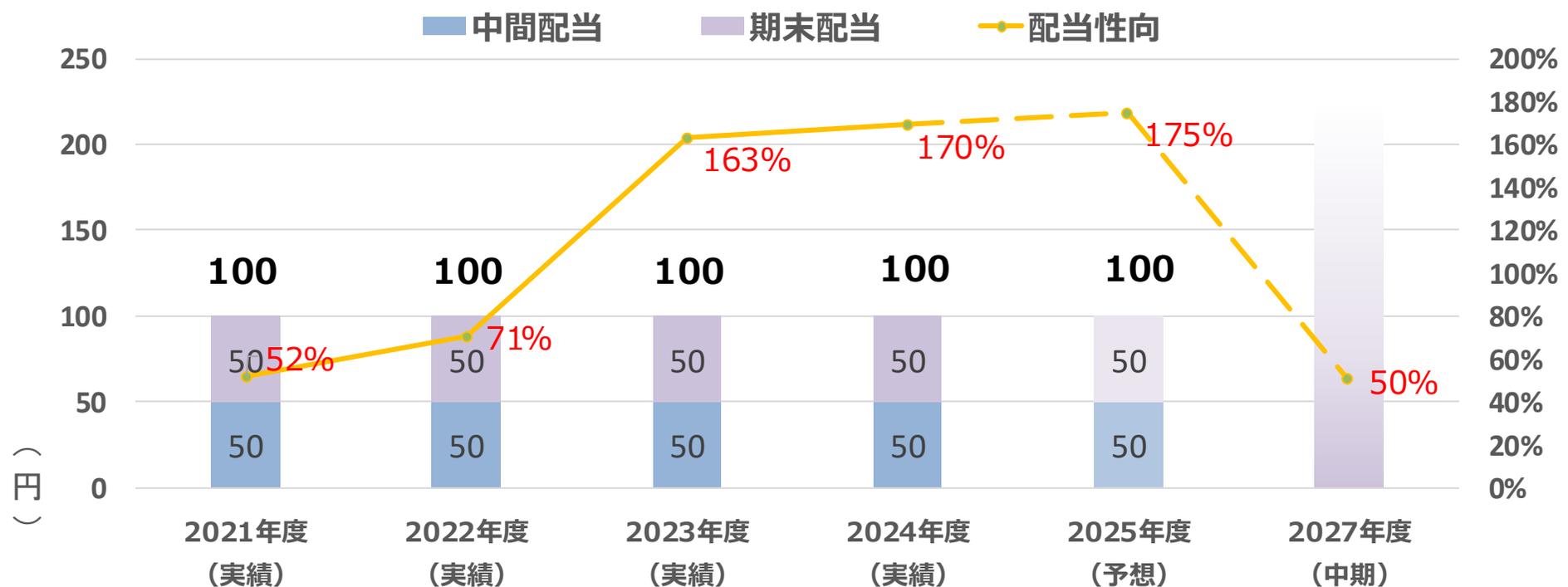
※2 経済産業省のDX推進指標を基に定めた12の項目について6段階で評価しデジタル成熟度レベルを判定

4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (⑥ 配当政策)

配当予想

配当は、株主の長期的かつ安定的な利益の確保と、会社業績の状況、将来的な事業展開に備えるための株主資本の充実などを総合的に勘案し決定する。
配当性向については、原則50%を目途に株主還元を実施する方針とする。



4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (⑦IR強化)

IR強化策

成長戦略ストーリーの構築と公表

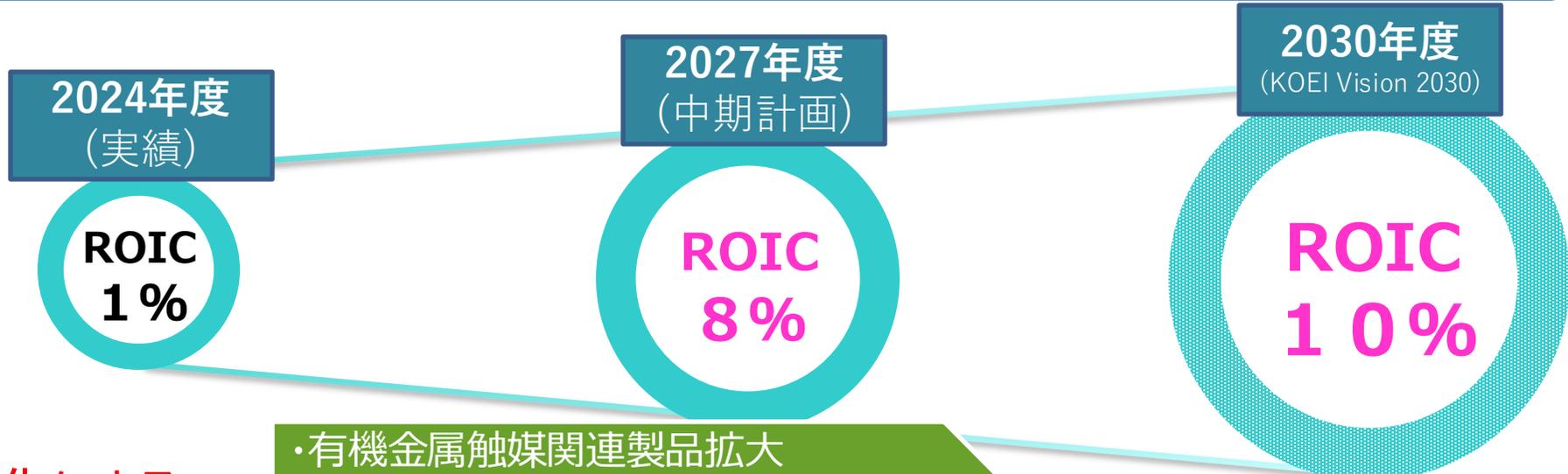
投資家との対話・エンゲージメント

具体的な取組み

- 四半期毎の決算説明会及び中期経営計画説明会の実施
- 機関投資家とのミーティング実施
- 「広栄化学レポート」の内容充実
- ホームページの内容充実
- TCFD提言に沿った開示の準備中
- 個人投資家向け会社説明会の実施検討

4. 資本コストを意識した経営実現に向けた対応

(2) 改善に向けた取組み (⑧まとめ-ROIC改善見通し)



① 収益力強化によるNOPATの改善

- ・有機金属触媒関連製品拡大
- ・住友化学グループシナジー強化 (光学材料製品拡大)

- ・カーボンニュートラル関連製品拡大
- ・住友化学グループシナジー強化 (医薬関連)
- ・イオン液体製品拡大

② 投下資本の圧縮努力

- ・CMV建設に係る借入金返済
- ・在庫圧縮等によるCCC改善

→ 当社の WACC (7%程度) 株主資本コスト(8%程度) を上回るROIC:10%達成を目指す

ご清聴ありがとうございました。

【注意事項】

本資料には、当社に関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、作成時点において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、研究開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。